

知っていましたか？

『分ける訳』



金属、ガラス、紙くずや食べ残しが混入していないか手作業で仕分け



分別の現状

残されるごみの行方

ごみステーションに残されているごみ袋を見たことはありませんか。そのほとんどは、きちんと分別されていないという理由で回収されなかったものです。

ちゃんと分別がされていれば、資源としてリサイクルできるものも、分別されていなければ行き場を失います。

そのようなごみ袋は、もとみやクリーンセンターの職員や市役所担当者が直接回収に向かい、中身を分別して処理するケースもあります。しかし、ほとんどは地元の環境委員や区長さん、または当番の人が、自宅などに持ち帰り、分別し直して、次の回収日に出しているのが現状です。

今回取材した環境委員の渡辺晃さんもそのような取り組みをしてくださっているうち

の1人です。渡辺さんの暮らす本宮2区では、環境委員や、昔から協力してくれる地域の人が力を合わせて、残されたごみ袋を自宅に持ち帰り分別をしています。

資源は『ごみ』じゃない

もとみやクリーンセンターには、毎日、本宮市・二本松市・大玉村から排出されたごみが搬入されています。搬入されるごみの量は、1日約106トン、年間約3万1千トンにも上ります。安達地方のごみ排出量は1日1人あたり約881グラムです。

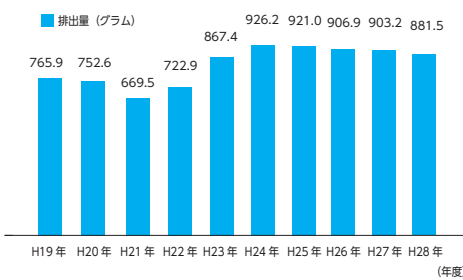
ごみの中でも、分別したプラスチック製容器、缶、ペットボトル、ビンなどは『資源』です。資源はリサイクルに回すことで、収入に変えられるいわば「商品」の一つ。きちんと分別しリサイクルすることで、地方全体の収入増とご

み減量につながります。

しかし、現在安達地方のごみの分別数は19種類。資源の分別は、分かりにくく面倒なため、つい燃やせるごみやビニール・プラスチックごみにまとめて捨ててしまう場合もあるのではないのでしょうか。

「お弁当を食べたり、ジュースを飲んだ後は、すぐに洗う」「缶やビンごとに、小さなごみ袋やごみ箱を用意しておく」などのちょっとした工夫で、簡単に楽しく分別することができるようになります。

安達地方 1日1人あたりのごみ排出量



分別の輪を、本宮全体に広げていきたい

区長になった年に、もとみやクリーンセンターを研修で訪れました。その際シルバー人材センターの皆さんが、膨大なプラスチック製容器包装ごみを手作業で分別し直している姿を目の当たりにして衝撃を受けました。「うちの区が先頭に立って分別をしていこう」。そう思い、見てきたことを区の役員に伝えました。

「分別の仕方が分からなくてまとめて捨てている人もいるだろう。区全体できちんと分別するには、きっと文書を見直すだけでは不十分だ。」その思いから、市の出前講座などを利用して分別の講習

会を開きました。このような講習を今後毎年1回実施できれば、少しずつ意識が変わっていくように思います。

市全体で分別ができるようになるには、自分の区だけでやっても変わりません。環境委員を通して学んだ、「きちんと分別したほうが楽」だということをもっと伝えて、分別の輪を本宮全体に広げていければいいと考えています。



「ごみとりじいさん」と自称する渡辺さん。朝の日課のごみひろいでは、毎日50〜60個のごみを拾います



本宮地区環境委員会副会長
環境美化推進員

渡辺 晃さん